

東海大学湘南校舎におけるツミの営巣

井 上 章

Akira INOUE: Breeding Record of Japanese Lesser
Sparrow Hawk on Syonan-campus
of Tokai University

はじめに

1992年4月下旬～7月上旬にかけて、平塚市北金目の東海大学湘南校舎構内でツミの番が繁殖を試み、これに成功した。本構内におけるツミの観察記録は単独個体での記録が数例あるが、冬季や突発的な出現であり一時的な記録に過ぎない。今回のような繁殖記録は初めてであり、ツミの営巣行動を一貫して観察できたことは偶然の事とはいえ非常に幸運であった。限られた時間の中で行った観察だけに、不十分な点が多々あると思われるが以下に報告する。なお、本報告は筆者の観察記録を、東海大学自然保護研究会会員の観察と共にまとめたものである。

周辺環境の概要

東海大学湘南校舎は平塚市北部に位置し（図1）、約50万㎡の敷地内に大小30余りの建物がある。二次林ではあるが樹木は比較的多く、ケヤキやアメリカカエデ、サクラ等を中心にその樹種も20余種に上る。陸上競技場やグラウンド等の開けた場所が多く、芝や低木による藪といった環境は少ない。水場としては、プール（改築中）と2つの噴水、小さな池がある程度である。周辺は殆ど住宅地だが、畑や水田が残っており、南側を流れる金目川とそれに付随した丘陵地帯にはまだ緑が残されている。

ここを訪れる鳥類は、以前の調査（1988-1991）で20科35種が記録され、このうち主な留鳥としては住宅地等で観られる14種である。また、春、夏よりも秋から冬にかけて比較的多くの鳥達が集まることが判明した（種類、個体数共）。その中でも猛禽類は極希な観察例しかなく、今回の様な営巣は前例が無い。

観察記録

◇4月24日（晴）

17:00 過ぎ、雄1羽を初認。低木の枝に止まり、数回鳴いた後飛び立つ。追跡し、構内路上の路肩にできた水溜まりで水浴びをしているのを目撃。この少し前から鳴き声がしていたということから、数日前より来ていたものと思われる。

◇4月27日（晴）

同所近くで雌雄不明なるも、ツミを目撃。餌を持っていた様子。

◇5月1日（晴）

11:00 過ぎ、雄を観た近くで今度は雌1羽を目撃。巢材（松葉、枯れ枝など？）らしき物をくわえてマツの木立に入る。営巣木と思われるマツを記憶して、後日確認することにした。

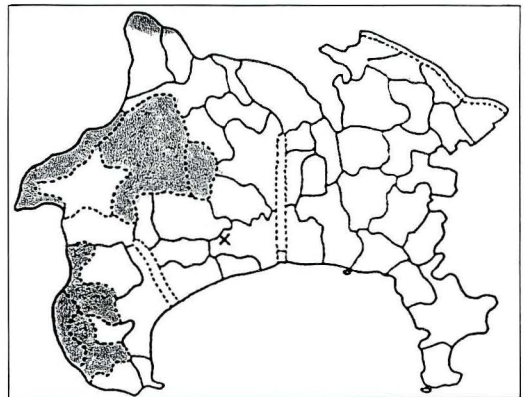


図1. 営巣地の県内位置。

×印は東海大学湘南校舎、網目部は丹沢箱根等の山岳部

◇5月6日(晴, 強風)

17:30 過ぎ, 先日記憶しておいたマツで雌が抱卵しているのを確認。巣は, 校舎の屋上からちょうど確認できる高さ(地上約5 m)にあった。何気なく見ただけでは見落としてしまう程, 周囲から確認しづらい位置にあった。この頃から, ツミの巣の周辺にオナガが多くなってきたように感じた。巣の近くでオナガの羽, 卵の殻(種類不明)を拾う。

巣を掛けたマツは直径約24 cm, 校舎から3 m程度しか離れていないアカマツ(図2)で, 同種のマツが9本植えられている中の1本である。また, 同じ様なマツのかたまりが周囲に点在している。その他, アメリカカエデの並木, サクラ等が周囲に植えられており, 構内でも比較的緑の濃い場所である。巣の近く(5 m程)に水銀灯の街灯が1本立っており, 夜間巣の周辺はかなり明るかった。



図2. 営巣木(アカマツ)

◇5月8日(晴, 強風)

08:30 雌抱卵中。巣の周囲にオナガ多数(10以上)。雄がオナガを牽制した。

◇5月15日(曇)

11:30 雌抱卵中。雄が陸上競技上の周辺で鳥(ムクドリ大)を鳴きながら追いかけていた。鳴き声が競技

場から中央通りへと移動。中央通りの並木(ケヤキ)に止まった様子。

◇5月17日(晴)

14:30~15:30休日には構内に殆ど人影が無いせいか, 大胆にも並木上の割と低めの枝に止まっていることが多く, 路から丸見えだった。雌は抱卵, 雄は近くの並木で休んでいたが, 時折餌(小鳥・種類は不明)を運んで来た。まず自分が半分位食べ, それから数回鳴きながら雌を呼び残りを渡した後, 替わりに抱卵するため巣に入った。この日, 採餌のポイントを確認。雌は食後の運動と羽繕いに余念がなかった。オナガの数は日増しに増え, 20羽以上は居る模様。また, 周囲の並木(アメリカカエデ)に巣も掛けている様子。

巣の近くは休み時間になると人通りも多く, 屋上では季節がら日光浴やキャッチボールをする学生も居た。また, 巣の真下を人が通ることもしばしばあったが, 周囲が割と無関心だったせいかつミの方はそれほど神経質になっている様子はなかった。それでも, 姿を見かけたのは授業中や夕方, 休日など人影の少ない時間帯の方がやはり多かったようである。

◇5月19日

夕方, 雄がスズメを捕らえているのを目撃。

◇5月27日

17:30 以前と同じ場所で雄のキャスティングを目撃, 木の上でしきりに鳴いていた。餌はスズメ等の小鳥ではないかと思われるが, ムクドリのような割りと大きな鳥も捕らえているようである。採餌場はマツ, カエデ等数カ所あるらしく, いずれも見通しの利く横枝であった。

◇5月29日

15:00 雄がしきりに鳴いていた。16:30 過ぎ, 雄が採餌場のマツに止まっているのを目撃。

◇6月3日(晴)

16:45~ 雌雄共に採餌。ツミが居ないことを確認して, よく餌を食べている木の下へ行く。小鳥の頭骨やペリット, 羽を拾う。スズメ, カワラヒワ, シジュウカラ, ツバメ等の物と同定。

◇6月7日(曇)

昼過ぎ, 雌雄共に並木の上に止まっていた。卵がふ化した様子。かえった雛は3羽, 巣の中で動くのが時折観られた。以後, 雌は巣の周りで辺りを警戒するようになった。あまり近づき過ぎないように, しばらくの間屋上からの観察を控えた。

◇6月17日(晴)

17:00 過ぎ、雌が校舎屋上のアンテナの上に止まり、辺りを警戒。巣との距離は10m前後の位置。雄はせつせと餌運び。運んでくる回数もやはり多くなっている様子。観ていた40分程度の間に3回運んで来た。カワラヒワをキャスティング。面白いのが食べる順番で、雄→雌→雛であった。食べ盛りの雛はあれで足りるのだろうか?。ペリット、ムクドリ頭骨を拾う。雛はだいぶ大きくなっており、巣が狭いのか中から出てしきりに動き、枝移りもしていた。

雄が1号館上空でヒメアマツバメを捕らえるのを観たなど、他の目撃例を総合すると、雄の行動範囲はほぼ大学構内だけに限定されるようである。ペリットを分解したところ、羽毛、骨の破片、足の皮等が出てきた。

◇6月18, 19日(雨, 曇)

通りすがりに観ただけだが、アンテナの上に雌の姿は無かった。

◇6月20日(曇)

18:30 雌はアンテナの上。雛もかなり大きくなって、ほとんど巣の中には居ない。暗くなると、雌の姿はアンテナ上に無かった。

◇6月24日(曇)

19:30 雌雄共に姿は見えず。暗くなってから何処に居るのかは不明。

◇6月25日

雛, 3羽共無事巣立つ。雌がアンテナの上でしきりに鳴き、巣立ちを促していたようである。雛は巣を出たが、頼りない羽ばたきですぐに近くの木に止まってしまった。

◇6月26日(晴)

アンテナの上に雌の姿無し。遠いのか小さいのか判らないが、辺りで鳴き声が聞こえた。姿までは確認できなかった。

◇6月28日(晴)

17:00 頃、雌は変わらずアンテナの上に止まって辺りを警戒。若鳥は3羽共、巣またはその近くのマツや並木に止まって、時折羽ばたいたり移動したりしていた。まだバランスの取り方が上手くなく、なんとも頼りない。眼もまだ可愛いといった感じ。鳴き声は成鳥のそれに比べてかなり小さく、トーンも高い。雄は前にも増して餌の調達に忙しい様子(1回に若鳥1羽に対して小鳥1羽程度)。餌を持って来るとしきりに鳴いて若鳥を呼び、木の上で餌を渡していた。餌を

食べる時、若鳥は巣の中かその脇の木(マツ)の上で食べていた。1羽が雄から餌をもらうのに失敗、地面に落ちた餌を拾うために降りてしばらく辺りを見回した後、慌てて巣の近くに戻った。ひとしきり若鳥に餌を与えた雄は、雌に餌を運んで来た。餌を食べている雌にオナガがちょっかいを出す、無視。周りのオナガの巣からも雛が巣立っているらしく、オナガの若鳥も観られた。雄が上空通過のカラスを牽制。

◇7月1日(晴)

19:30 巣近くにある並木の上の方で聞いたことの無い鳴き声を聞いた。今までに聞いたツミの声とはかなり違っていたが、既に暗く姿までは確認できなかった。(ツミならば成鳥と思われる。)

◇7月3日(晴)

11:00, 13:00, 16:30, 18:30 いずれの時間にもアンテナ上、巣とその周辺にツミの姿は無かった。この日を境に巣の近くにその姿(成鳥・若鳥共に)は観られなくなった。19:00 過ぎ、構内中央通り脇で若鳥1羽が墜ちているのを発見。右の羽が折れている様子だったが、比較的元気だったので、相談の結果県立自然保護センターへ運ぶことにした。原因は定かでないが、かなりの重傷であった。

◇7月中旬以降

構内ではないが成鳥1羽が上空通過、近くの川で若鳥らしき2羽が目撃されたが、構内で繁殖・巣立ったものと同一個体であるかは定かでない。また、8月に入ってからツミのものと思われる鳴き声を構内で聞いたという報告もあるが、姿までは確認されていない。

まとめ

最近、住宅地内の公園等で繁殖するツミが増えてきているという。今回の例は、そのことと少なからず関係あるものと思われる。また、ツミが営巣していた周辺で多数のオナガが営巣したことも興味深い。今回は雨天日、終日調査や、行動範囲の把握など詳しい調査はできなかったが、この点は次の機会にできればと考えている。今回の出来事は、都市化の進む中で鳥達がどのような状況に立たされているのか、改めて考えさせられる良い例であったと思う。

最後に、観察に協力してくれた東海大学自然保護研究会の会員各位、観察および報告書をまとめるにあたりアドバイスを下さった平塚市博物館の浜口哲一氏にこの場をかりてお礼を述べたい。

文 献

- 遠藤 孝一・平野 敏明・植田 睦之, 1991. 日本におけるツミ *Accipiter gularis* の繁殖状況. *Strix*, 10 : 171-179.
- 東海大学自然保護研究会, 1989. 東海大学構内の鳥類相, 1-4, 16.
- 東海大学自然保護研究会, 1990. 湘南校舎鳥類調査報告, 1-2, 10-12.
- 日本野鳥の会神奈川支部編, 1992. 神奈川の鳥図鑑. 30pp. 神奈川県.
- (〒157 東京都世田谷区祖師谷 3-47-13)